



2026 年 10 月 14 日

各 位

会社名 株式会社セイヒョー
代表者名 代表取締役社長 飯塚 周一
(コード番号：2872 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役管理部長 安藤 力
TEL 025-386-9988

第2四半期（中間期）業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2026 年 4 月 10 日に公表いたしました 2027 年 2 月期第2四半期（2026 年 3 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 2027 年 2 月期第2四半期（中間期）業績予想と実績との差異（2026 年 3 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1 株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想（A）	3,800	230	230	160	113.96
実績値（B）	3,870	139	141	80	57.25
増減額（B - A）	70	△91	△89	△80	
増減率（％）	1.8	△39.2	△38.3	△49.7	
（ご参考）前期実績 （2026 年 2 月期第2四半期）	3,097	188	202	133	95.29

2. 差異の理由

当中間会計期間の経営成績は、主力のアイスクリーム部門において、昨年取得した富山工場における OEM 製品の売上が増加したほか、自社製品のかき氷カップが伸長し、ファミリータイプの 2L バニラアイスも堅調に推移いたしました。一方、主要販売エリアにおける気温や降雨の影響により、「もも太郎」等の氷菓製品の販売は伸び悩んだものの、OEM 製品及びかき氷カップの売上増加が寄与し、売上高は前回公表した予想を上回りました。

損益面については、エネルギーコストの高止まりや人件費の上昇によるコスト負担が継続する中、中東情勢の影響を受けた包装資材価格の上昇や、継続的な原材料の価格改定により、製造コストの増加が期初の想定を上回りました。また、一部商品の販売が計画を下回ったことによる製品在庫の保管期間の長期化に伴い、外部倉庫への支払保管料が想定を上回ったほか、売上高の増加に伴う運搬費も増加し、運搬保管料を中心に販売費及び一般管理費が増加いたしました。これらの要因により、営業利益、経常利益及び中間純利益は、いずれも前回公表した予想を下回りました。

なお、通期業績予想につきましては、現時点では前回公表した予想を据え置いております。当中間会計期間の実績及び足元の原材料・包装資材価格の動向等を踏まえ、下期の販売・生産計画並びに費用の見通しを含め、現在精査を進めております。今後、業績予想の修正が必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

※上記の業績予想等に関する記述につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成されており、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上